

2022 年度

清教学園中・高等学校

学校評価

1

めざす学校像

「神なき教育は知恵ある悪魔をつくり、神ある教育は愛ある知恵に人を導く」という建学の精神のもと、「一人ひとりの賜物を生かす」ことのできる質の高い人間教育を行うことを目指す。

- 清教学園の目指す人間像
- ①神を信じ誠実に仕える
- ②真理を学び賜物を生かす
- ③隣人と共に平和を築く

中期的目標：

教育の質的向上 ～清教「らしさ」・清教メソッドの確立、および運営の質的向上 ～

- 1 教育の質的向上
- (1) 学力伸張を図る
- (2) 社会自立・自己実現に向けた夢を育て、志を形成する
- (3) 高い倫理観と Servant Leadership を育成する * Servant Leadership：「リーダーである人は、まず相手に奉仕し、その後、相手を導くものである」という考え
- 2 生徒における学校生活の充実
- (1) 特別活動の充実
- (2) 生徒指導の充実
- (3) 生徒支援
- 3 環境整備力の向上
- (1) 施設の充実
- (2) 外部環境への対応
- (3) 情報の共有化と発信力の促進

【学校評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

学校評価アンケートの結果と分析〔2022 年 12 月実施分〕	学校評価委員会からの意見
<評価結果の高かった項目> ※ 数値は AB の回答率〔%〕 【中学生】 「英語」には学力向上につながる授業が多い98.6 「社会（地歴・公民）」には学力向上につながる授業が多い97.9 生徒は充実した学園生活を送っている95.1 図書館教育は知的関心を高めるのに役立っている95.1 生徒は学園で学ぶことに誇りを持っている94.4 「数学」には学力向上につながる授業が多い94.4 【高校生】 熱心に指導してくれる教員が多い94.7 家庭への連絡は適切に行われている91.9 「数学」には学力向上につながる授業が多い91.1 規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされている91.1 プロジェクト等、教室の ICT 環境は学習理解を深める89.4 「理科」には学力向上につながる授業が多い89.0 【中学保護者】 P T A 活動が盛んである96.9 学校行事は生徒が積極的に参加できるよう工夫されている96.4 公平な教員が多い95.6 熱心に指導してくれる教員が多い95.1 プロジェクト等、教室の ICT 環境は学習理解を深める94.7 家庭への連絡は適切に行われている94.7 いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる94.2 図書館教育は知的関心を高めるのに役立っている94.2 生徒は充実した学園生活を送っている93.8 生徒は学園で学ぶことに誇りを持っている93.8 宗教・人権教育が重要視されている93.8 【高校保護者】 いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる95.9 プロジェクト等、教室の ICT 環境は学習理解を深める ※2022 年度：書画カメラの文言を省いた95.9 規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされている95.3 生徒が問題行動を起こした時に、きちんと対応している95.0 熱心に指導してくれる教員が多い95.0 宗教・人権教育が重要視されている93.9 生徒は学園で学ぶことに誇りを持っている93.3 個人情報端末は学習理解を深める93.3	2023（令和 5）年 3 月 25 日に 2022（令和 4）年度の学校関係者評価委員会を開催した。この学校関係者評価委員会は、保護者会関係者、地域居住者、および学園評議員によって構成されている。なお、評議員の選定については、寄附行為に基づき、学識経験者、学園卒業生、および学園教職員の 3 つの枠を設けた上で行われている。 【保護者会関係者からの意見等】 ・低い評価結果の教科に心配を感じる。C 評価から B 評価、そして A 評価に改善していくために、学校全体として教育改善の努力が必要ではないか。 → 当該教科に限らず、教科内容の質を全体として改善していくにあたっては、教員研修をさらに充実していくことを進めたい。また、現行の学校評価アンケートのような仕方にもではなく、授業時間中での評価アンケートの実施という方法など、大学で行っている FD（Faculty Development）のような形がいっそう効果的であるとも考えている。検討させていただきたい。 【地域居住者からの意見等】 ・本校を勧めるかについてのマイナス評価は、通学路の坂道の厳しさがどれくらいの理由になっているかと考えられるのか。 → 評価の理由についてはさらに詳しく確かめられるようにさせていただきたい。通学路で登校を迎える際に見る生徒たちの表情からは、学園での生活を楽しみ揚々と通学している率が高いと思われる状況である。近隣の方々からの温かなお気持ちでのお見守りに改めて感謝したい。 【学識経験者からの意見等】 ・教科によって評価の低い状態になっているのはなぜか。 → 教科特性もあって伸びたという感じが少ない場合もあるが、今回アンケートでの結果いかんによらず、すべての教科について、教科内での勉強会などを通じて改善を図っているところである。 ・生徒における評価が高いが、教職員による評価が低いという項目が気にかかる。実際、設問 12「宗教・人権教育が重要視されている」については、教員における捉え方がネガティブであれば問題があると言える。キリスト教の価値観を知ってほしいと思われる。また設問 17「部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている」については、

生徒は充実した学園生活を送っている	93.0	部活動に時間をとられすぎているという感じであるのか。そして安全管理については、教員において今年も低い評価であるが、どういう気づきに基づくものであるのか。
ホームページや広報誌は学園の取り組みを知るのに役立っている	92.7	
【教職員】		
いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる	100.0	→ 宗教教育の本当の意味を考えると、どの教科の指導の土台にもそれがあるべきだが、それを実現しきれてないということで、教員における評価が厳しいのではないかと思われる。また、将来に就きたい仕事のイメージに関する設問をめぐっては、教員たちにおいて、自分自身の経験からもっと情報提供できているのではないか。そして部活動に関しては、若手教員や中堅教員において、勉学と部活動とのバランスをさらに改善していきたいと考えているケースが増えている。なお、安全面については、教員において、生徒たちの学校生活環境の細部にわたるまで関連意識が高まっていることの表れでもあると捉えられる。なお、災害の避難訓練は恒常的に行われているが、侵入者対策の訓練については最新の知見に関する情報を十分に取り入れていくための機会をもっと設ける必要が感じられている。2023 年度の夏の教職員研修会で集中的に取り組む予定である。また、防犯グッズのさらなる整備も進める予定である。
図書館教育は知的関心を高めるのに役立っている	97.6	
熱心に指導してくれる教員が多い	97.6	・ 建学理念や宗教教育に関する設問では、昨年度よりは評価数値が少し上がっているが、教員による評価が上がらないのをどう改善していくか。たしかに新任者へのキリスト教研修会は実施されているが、実際にキリスト教の理解を深めてもらうというのは、本当は容易なことではない。どの授業の土台にもあるべきだということの具体性をどう作っていくのか。中高教員がキリスト教に触れる機会をもっと作るのはどうしていくべきか。新任時期の教員に対してのみではなく、とりわけ着任から数年経った教員において学びの機会がもっとできれば、なおいっそう良いのはないか。また、合同礼拝の際に教員が生徒指導に専念しているケースも見受けられるが、合同礼拝の場では、むしろ生徒たちも教員たちも共に礼拝への参加者になっているというような状態が望ましいと思われる。
家庭への連絡は適切に行われている	97.6	
悩みや相談に親身になってくれる教員がいる	95.1	→ 生徒たちに向き合う時間のさらなる確保、またとりわけキャリアの積み重ねられた教員については然るべき職責を果たすための時間のさらなる確保ができるようにするため、現下、キリスト教研修会への参加が義務になっているのは新任教員のみであるが、合同礼拝では生徒と同時に教員も参加しているので、その機会をキリスト教にしっかり触れる時間として生かすということを大切にしたい。
P T A 活動が盛んである	95.1	
トイレ設備が整備されている	92.7	【学園卒業生からの意見等】
公平な教員が多い	92.7	
＜評価結果の比較的低かった項目＞ ※ 数値は AB の回答率〔%〕		
【中学生】		
部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている	70.8	・ 最近、企業では、自分たちの取り組む事業の質をしっかりとさせ、あえて万人受けは狙わないという傾向にもなってきている。そのことについては学校でも同じになってくるのではないだろうか。現下、財務的にも健全であり、当面の安定的な運営は確保できる状態であるため、注力しているにもかかわらずネガティブな評価になってしまったといったところの改善に留意していけばよい。部活動については、勉学とのバランスを改めて見直して、学園としてのブランド力を失わないようにするというのが必要だと思われる。いずれにせよ、勉学と課外活動との両立をさらに適切な仕方においてめざすというスタンスは継続されたい。とりわけ部活動との両立ということへの評価が安定しない年度が続いているため、バランスの改善という課題にいっそう向き合うことが重要であると思われる。
塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく	75.7	
進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている	76.4	→ 部活動方針 に定めた内容を遵守して、「バランスのとれた進学校」として在る本校への好感を維持・向上させ、生徒たちが「学園のめざす人間像」に質的に高いレベルで適った成長を遂げていくよう、日々の教育活動のさらなる質的向上に真摯に努めていきたい。
トイレ設備が整備されている	77.1	
食堂（パンおよびテイクアウトを含む）は利用しやすい ※2022 年度：「パンおよびテイクアウトを含む」の文言を追記	77.8	・ トイレ等の施設改修もこれまで以上に積極的に進められ、学校環境の充実度が増している。ここ数年にわたり評価の高くなかったトイレ設備について好転したのは喜ばしい。今回の学校評価アンケートの結果についてのテキストマイニングもされたとの説明であったが、そうした作業も進めることで、トイレの美化におけるポイントがどこにあるかもしっそう分析されたと思われる。次年度以降も生徒たちの衛生環境の質や美観的な心地よさをいっそう高めてもらいたい。
公平な教員が多い	78.5	
いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる	79.9	→ コロナ禍を経て、生徒たちの衛生環境を守るための努力がさらに高い水準で求められることになり、最新の施設設備に関する情報収集も進めている。また、国庫補助金の活用もさせていただき、最新設備の導入についてスピードアップを図っている。建築費の高騰が続く中ではあるが、学校全体の環境整備・質向上を計画的に進めていくことができるよう、ますます努めていきたい。
将来、学びたい学問などをイメージするための情報が提供されている	81.3	
将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている	81.9	・ トイレ等の施設改修もこれまで以上に積極的に進められ、学校環境の充実度が増している。ここ数年にわたり評価の高くなかったトイレ設備について好転したのは喜ばしい。今回の学校評価アンケートの結果についてのテキストマイニングもされたとの説明であったが、そうした作業も進めることで、トイレの美化におけるポイントがどこにあるかもしっそう分析されたと思われる。次年度以降も生徒たちの衛生環境の質や美観的な心地よさをいっそう高めてもらいたい。
姉妹校などによる交流や語学研修・留学制度も充実し、グローバルな視点が養えている	81.9	
【高校生】		
知り合いや後輩に学園への入学を勧める	62.2	→ コロナ禍を経て、生徒たちの衛生環境を守るための努力がさらに高い水準で求められることになり、最新の施設設備に関する情報収集も進めている。また、国庫補助金の活用もさせていただき、最新設備の導入についてスピードアップを図っている。建築費の高騰が続く中ではあるが、学校全体の環境整備・質向上を計画的に進めていくことができるよう、ますます努めていきたい。
塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく	64.6	
部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている	64.6	→ コロナ禍を経て、生徒たちの衛生環境を守るための努力がさらに高い水準で求められることになり、最新の施設設備に関する情報収集も進めている。また、国庫補助金の活用もさせていただき、最新設備の導入についてスピードアップを図っている。建築費の高騰が続く中ではあるが、学校全体の環境整備・質向上を計画的に進めていくことができるよう、ますます努めていきたい。
トイレ設備が整備されている	74.0	
将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている	74.8	・ トイレ等の施設改修もこれまで以上に積極的に進められ、学校環境の充実度が増している。ここ数年にわたり評価の高くなかったトイレ設備について好転したのは喜ばしい。今回の学校評価アンケートの結果についてのテキストマイニングもされたとの説明であったが、そうした作業も進めることで、トイレの美化におけるポイントがどこにあるかもしっそう分析されたと思われる。次年度以降も生徒たちの衛生環境の質や美観的な心地よさをいっそう高めてもらいたい。
ホームページや広報誌は学園の取り組みを知るのに役立っている	75.2	
「国語」には学力向上につながる授業が多い	75.6	→ コロナ禍を経て、生徒たちの衛生環境を守るための努力がさらに高い水準で求められることになり、最新の施設設備に関する情報収集も進めている。また、国庫補助金の活用もさせていただき、最新設備の導入についてスピードアップを図っている。建築費の高騰が続く中ではあるが、学校全体の環境整備・質向上を計画的に進めていくことができるよう、ますます努めていきたい。
P T A 活動が盛んである	75.6	
自習室・ラーニングコモンズは利用しやすい	76.8	→ コロナ禍を経て、生徒たちの衛生環境を守るための努力がさらに高い水準で求められることになり、最新の施設設備に関する情報収集も進めている。また、国庫補助金の活用もさせていただき、最新設備の導入についてスピードアップを図っている。建築費の高騰が続く中ではあるが、学校全体の環境整備・質向上を計画的に進めていくことができるよう、ますます努めていきたい。
進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている	77.6	
【中学保護者】		
食堂（パンおよびテイクアウトを含む）は利用しやすい ※2022 年度：「パンおよびテイクアウトを含む」の文言を追記	60.4	→ コロナ禍を経て、生徒たちの衛生環境を守るための努力がさらに高い水準で求められることになり、最新の施設設備に関する情報収集も進めている。また、国庫補助金の活用もさせていただき、最新設備の導入についてスピードアップを図っている。建築費の高騰が続く中ではあるが、学校全体の環境整備・質向上を計画的に進めていくことができるよう、ますます努めていきたい。
進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている	70.7	
塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく	75.1	→ コロナ禍を経て、生徒たちの衛生環境を守るための努力がさらに高い水準で求められることになり、最新の施設設備に関する情報収集も進めている。また、国庫補助金の活用もさせていただき、最新設備の導入についてスピードアップを図っている。建築費の高騰が続く中ではあるが、学校全体の環境整備・質向上を計画的に進めていくことができるよう、ますます努めていきたい。
部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている	75.6	
将来、学びたい学問などをイメージするための情報が提供されている	76.9	→ コロナ禍を経て、生徒たちの衛生環境を守るための努力がさらに高い水準で求められることになり、最新の施設設備に関する情報収集も進めている。また、国庫補助金の活用もさせていただき、最新設備の導入についてスピードアップを図っている。建築費の高騰が続く中ではあるが、学校全体の環境整備・質向上を計画的に進めていくことができるよう、ますます努めていきたい。
将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている	79.1	
【高校保護者】		
部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている	71.9	→ コロナ禍を経て、生徒たちの衛生環境を守るための努力がさらに高い水準で求められることになり、最新の施設設備に関する情報収集も進めている。また、国庫補助金の活用もさせていただき、最新設備の導入についてスピードアップを図っている。建築費の高騰が続く中ではあるが、学校全体の環境整備・質向上を計画的に進めていくことができるよう、ますます努めていきたい。
塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく	74.9	
食堂（パンおよびテイクアウトを含む）は利用しやすい ※2022 年度：「パンおよびテイクアウトを含む」の文言を追記	79.2	→ コロナ禍を経て、生徒たちの衛生環境を守るための努力がさらに高い水準で求められることになり、最新の施設設備に関する情報収集も進めている。また、国庫補助金の活用もさせていただき、最新設備の導入についてスピードアップを図っている。建築費の高騰が続く中ではあるが、学校全体の環境整備・質向上を計画的に進めていくことができるよう、ますます努めていきたい。
授業の理解が不十分な時に、面倒をよく見てくれる	80.7	
将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている	82.2	→ コロナ禍を経て、生徒たちの衛生環境を守るための努力がさらに高い水準で求められることになり、最新の施設設備に関する情報収集も進めている。また、国庫補助金の活用もさせていただき、最新設備の導入についてスピードアップを図っている。建築費の高騰が続く中ではあるが、学校全体の環境整備・質向上を計画的に進めていくことができるよう、ますます努めていきたい。
【教職員】		
部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている	51.2	→ コロナ禍を経て、生徒たちの衛生環境を守るための努力がさらに高い水準で求められることになり、最新の施設設備に関する情報収集も進めている。また、国庫補助金の活用もさせていただき、最新設備の導入についてスピードアップを図っている。建築費の高騰が続く中ではあるが、学校全体の環境整備・質向上を計画的に進めていくことができるよう、ますます努めていきたい。
知り合いや後輩に学園への入学を勧める	56.1	
将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている	70.7	→ コロナ禍を経て、生徒たちの衛生環境を守るための努力がさらに高い水準で求められることになり、最新の施設設備に関する情報収集も進めている。また、国庫補助金の活用もさせていただき、最新設備の導入についてスピードアップを図っている。建築費の高騰が続く中ではあるが、学校全体の環境整備・質向上を計画的に進めていくことができるよう、ますます努めていきたい。
学校行事は生徒が積極的に参加できるよう工夫されている	70.7	
災害や不審者から生徒の身を守ることができるように配慮している	70.7	→ コロナ禍を経て、生徒たちの衛生環境を守るための努力がさらに高い水準で求められることになり、最新の施設設備に関する情報収集も進めている。また、国庫補助金の活用もさせていただき、最新設備の導入についてスピードアップを図っている。建築費の高騰が続く中ではあるが、学校全体の環境整備・質向上を計画的に進めていくことができるよう、ますます努めていきたい。
将来、学びたい学問などをイメージするための情報が提供されている	73.2	
宗教・人権教育が重要視されている	75.6	→ コロナ禍を経て、生徒たちの衛生環境を守るための努力がさらに高い水準で求められることになり、最新の施設設備に関する情報収集も進めている。また、国庫補助金の活用もさせていただき、最新設備の導入についてスピードアップを図っている。建築費の高騰が続く中ではあるが、学校全体の環境整備・質向上を計画的に進めていくことができるよう、ますます努めていきたい。
塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく	78.0	
授業の理解が不十分な時に、面倒をよく見てくれる	78.0	→ コロナ禍を経て、生徒たちの衛生環境を守るための努力がさらに高い水準で求められることになり、最新の施設設備に関する情報収集も進めている。また、国庫補助金の活用もさせていただき、最新設備の導入についてスピードアップを図っている。建築費の高騰が続く中ではあるが、学校全体の環境整備・質向上を計画的に進めていくことができるよう、ますます努めていきたい。
個人情報端末は学習理解を深める	78.0	
進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている	78.0	→ コロナ禍を経て、生徒たちの衛生環境を守るための努力がさらに高い水準で求められることになり、最新の施設設備に関する情報収集も進めている。また、国庫補助金の活用もさせていただき、最新設備の導入についてスピードアップを図っている。建築費の高騰が続く中ではあるが、学校全体の環境整備・質向上を計画的に進めていくことができるよう、ますます努めていきたい。
<全体総括>		
コロナ禍の影響下ながらも通常の教育活動が少しずつ戻りつつある中、成果に関する手応えの感受と同時に課題点の明瞭化が進んだ年度であった。		

3 本年度の取組内容及び自己評価

中 期 的 目 標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育の質的向上	(1) 学園の教育理念への十分な理解に基づく学業生活の推進	ア. 礼拝への積極的な参加を促すことをはじめ、こころの教育のさらなる充実を図り、宗教・人権教育が重要視されていることが十分に理解されるように努める。	学校評価アンケートにおける結果を分析することを通じて評価するのを基本とする。 ア. 建学の精神に関する理解、及び宗教・人権教育が重要視されているかに関する評価結果が、どの評価対象枠においても 80%以上 (前年度→前者については生徒：中 84.3、高 73.6 保護者：中 87.8、高 85.1 教員：72.2 後者については生徒：中 88.6、高 82.7 保護者：中 93.9、高 91.9 教員：66.7)	建学の精神の理解については、中学生 87.5%、高校生 78.0%、中高保護者がそれぞれ 86.2%、86.9%、教員が 80.5%で、高校生において 80%に達していない。特に高校においては、昨年度に続きコロナ禍で合同礼拝や宗教行事でも参集が難しかったことが多少なりとも影響していると思われる。 宗教・人権教育においては、中学生 91.6%、高校生 87.0%、中高保護者がそれぞれ 93.8%、93.9%、教員が 75.6%で、教員においてのみ 80%に達していない。その他の評価対象枠が全て 80%を超えていることから、教員が求める評価基準が高いのかもしれない。(△)
		イ. バランスの取れた教育活動を通じて、生徒の自律・自立を促し、自己肯定感を高める取り組みを推進する。	イ. 生徒が充実した学園生活を送っているかに関する評価結果がどの評価対象枠においても 80%以上 (前年度→生徒：中 93.4、高 81.4 保護者：中 95.9、90.8 教員：97.2)	中学生 95.1%、高校生 81.3%、中高保護者がそれぞれ 93.8%、93.0%、教員が 85.3%で、コロナ禍の影響がまだまだ大きく、制限も多い状況であったにもかかわらず、全評価対象枠において 80%以上の高評価が達成された。賜物を生かす教育の実践を継続して行きたい。(○)
		ウ. グローバルリーダー育成のプログラムをさらに積極化・多様化させ、生徒において国際交流活動が身近なものだとさらに認識されるように図る。	ウ. 姉妹校による交流や語学研修・留学制度が充実しているかに関する評価結果がどの評価対象枠においても 80%以上 (前年度→生徒：中 71.1、高 74.3 保護者：中 81.4、高 76.6 教員：77.8)	中学生 82.0%、高校生 80.1%、中高保護者がそれぞれ 85.4%、88.0%、教員が 90.3%で、全ての評価対象において前年度よりも評価が改善した。コロナ禍の影響があったにもかかわらず、少しずつ活動を再開して行ったことが要因と思われる。グローバル教育における高評価を継続して行きたい。(○)
	(2) 学力向上をもたらす学習指導の工夫および生徒の自主的な学習姿勢の育成	エ. ICT 等の積極的な活用をはじめ、生徒における授業内容の理解を促すような工夫を継続する。	エ. 学力向上につながる授業が多い(主要 5 教科平均) およびプロジェクト等、教室の ICT 環境は学習理解を深めるの評価結果がどの生徒においても 80%以上 (前年度→【前者】生徒：中 91.6%、高 85.7%【後者】生徒：中 89.8%、高 88.3%)	学力向上につながる授業が多いという評価(主要 5 教科平均)については、中学生は前年度よりかなり向上し、平均で 94.6%という結果であった。5 教科全てが 90%以上であり、中でも英語は 98.6%、社会は 97.9%という高い評価を得た。高校生は前年度からやや改善し 86.1%であったが、国語は前年度に引き続き 75%程度と低い評価となった。また 90%台は数学だけであり、英語・理科・社会は 80%台という結果であった。 教室の ICT 環境の学習への効果について、中学生は 89.6%と高評価となった。高校でも 89.4%と高評価である。現在の環境をさらに活かすためにも、教材のデジタル化を進め、個人情報端末のさらなる活用も含めて、より学習効果が上がるように取り組んでいく必要がある。(△)

1 教育の質的向上		オ. 個々の生徒における学習到達状況を把握し、各人の学習意欲を受けとめられるような丁寧な指導に努める。	オ. 「塾・予備校に行かなくても学校の勉強で十分な学力がつく」・「理解が不十分なときに面倒をよく見てくれる」に関する評価結果が生徒・保護者において 80%以上 (前年度→【前者】生徒：中 76.5%、高 67.4%、保護者：中 70.5%、高 66.8%【後者】生徒：中 80.1%、高 80.8%、保護者：中 82.4%、高 74.7%)	「塾・予備校に行かなくても学校の勉強で十分な学力がつく」に関しては、中学生 75.7%、高校生 64.4%であり、保護者に関しても 80%には届かないのが現状である。どの成績層の生徒が低い評価をしているのか、実際に塾に通っているのかを見極め、生徒の成績やニーズにマッチした補講・セミナーを展開する必要がある。 「理解が不十分なときに面倒をよく見てくれる」に関しては、中学生 82.6%、高校生 87.4%、中学保護者 80.9%、高校保護者 80.7%と生徒の評価は概ね高いが、それに対して保護者の評価が低い傾向が見られる。これは例年と同様である。(△)
		カ. 生徒の自主的な学習姿勢および課題発見・解決力を育成するために図書館教育の機能をさらに有効化させる。	カ. 「図書館教育は知的関心を高めるのに役立っている」に関する評価結果が生徒・保護者において 80%以上 (前年度→生徒：中 89.2%、高 85.0%、保護者：中 96.9%、高 86.4%)	本校図書館「リブラリア」の積極的な取り組みが成果を上げており、中学生 95.1%、高校生 85.8%と高評価であった。保護者からも中学保護者 94.2%、高校保護者 90.1%と高く評価されている。(○)
	(3) キャリア教育の 拡充を含む進路指導の充実化	キ. 将来つきたい職業のイメージを喚起できるような機会を増やし、進路に関して明確な夢・目標が持てる指導を図る。	キ. 「将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている」「将来、学びたい学問などをイメージするための情報が提供されている」「進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている」に関する評価結果が生徒・保護者において 80%以上 (前年度→【1 つ目】生徒：中 74.1%、高 76.5%、保護者：中 78.0%、高 80.2%【2 つ目】生徒：中 75.3%、高 80.8%、保護者：中 75.9%、高 82.7%【3 つ目】生徒：中 69.9%、高 76.5%、保護者：中 75.3%、高 81.5%)	「将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている」では中学生 81.9%、高校生 74.8%、中学保護者 79.1%、高校保護者 82.2%となった。中学は前年度から評価が上がった。校外学習で企業訪問をするなどの成果ではないかと考えられる。一方、修学旅行で企業訪問をする高 2 では 70.8%と高評価にはつながっていないのが現状である。 「将来、学びたい学問などをイメージするための情報が提供されている」では中学生 81.3%、高校生 81.7%、中学保護者 76.9%、高校保護者 85.7%と概ね高評価であった。。これは ICT 環境が整い、情報提供が簡単に行えるようになったことも原因として考えられる。 「進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている」では中学生 76.4%、高校生 77.6%、中学保護者 70.7%、高校保護者 86.8%であり、生徒の評価がいずれも 80%台に届かなかった。これは混迷する世界情勢や、変化が激しく見通しがつかない現代社会が影響しているとも考えられる。情報を提供するだけでなく、それを元に生徒に考えさせる時間や機会を増やすことが必要である。(△)

2 生徒 にお ける 学校 生活 の充 実	(1) リーダーシップ の育成にも資する 特別活動の充実化	ア. 生徒が主体となって参加・運営する学校行事の あり方を追求していく。	ア. 「学校行事は生徒が積極 的に参加できるように工 夫されているか」に関す る評価結果がどの評価対 象者枠においても 80%以 上 (前年度→生徒：中 84.9%、高 75.9%、保護 者：中 93.9%、高 84.3%、教員：75.0%)	コロナ禍の影響はあるものの、学校行事や国 内宿泊行事はほぼ実施することができた。た だ、多くの制約があったことは否めず、決し て満足な行事運営でないにも関わらず、教職 員以外は 80%の高評価を得た。次年度も生 徒、教職員が安全であることを第一に考え、 更に一步進めた工夫を重ねて、生徒が輝き賜 物を生かす教育・行事運営を実践したい。 (△)
	(2) 社会性の高まる ような生徒指導の 充実化	イ. 勉学と課外活動の両立を謳う本校においてはと くに、両者のバランスがきちんと確立されてい ることが求められており、学内外の関係者に おいて納得してもらえる状況を作っていくのが重 要である。	イ. 「部活動は勉強時間が確 保できるように配慮され ているか」に関する評価 結果がどの評価対象者枠 においては、80%以上 (前年度→生徒：中 76.5%、高 60.6%、保護 者：中 85.1%、高 70.3%、教員 47.3%)	教職員の評価は前年に引き続き低く、全体的 には前年度と大きな変化は無く、全て 80% 未満で引き続き評価は高くなかった。部活動 も活動がコロナ禍以前に戻りつつあり、時代 にふさわしい賜物を生かす「文武両道」を、 けじめを大切にしながら、部活動の成果と学 習面における指導・成果との両輪が揃う教育 活動を、今後も継続して模索しなければならない。(△)
	(3) 生徒が安心して 学校生活がおくれ るような生徒支援 の推進	ウ. 規則遵守の促進、美化意識の向上、いじめのな い学校作りへの取り組みを通じて、学校生活にお ける基本的環境を整えられるように図る。	ウ. 「規則遵守やマナー・美 化意識等を高める指導が されているか」・「いじめ や暴力のない学校づくり に取り組んでいる」・「生 徒が問題行動を起こした ときにきちんと対応して いる」に関する評価結果 の平均値がすべての評価 対象枠において 80%以上 (前年度(平均値)→生 徒：中 85.7%、高 84.7%、保護者：中 93.5%、高 93.0% 教員 94.4%)	今年度も保護者・教員から 90%超の高い評 価を得た。また、中学生・高校生からも 80%を超える評価となっている。「いじめや 暴力のない学校づくりに取り組んでいる」評 価が、中学生で 79.9%であることを心に留 め、現状に満足せずに、隣人とともに全ての 生徒が安全で安心して過ごせる学園に更に発 展できるよう、HRや面談、中学はデイリー ノート指導など全ての教育活動を通して、生 徒の日々の様子を注視し、指導することを大 切にしていきたい。(○)
		エ. 学校生活の基盤たる健康の促進を図るべく、生 徒における健康意識の醸成に努める。	エ. 「保健教育を通して健康 管理の大切さについて意識 を高める指導がされている か」に関する評価結果はどの 評価対象者枠においても 80%以上(前年度→生徒：中 89.8% 高 82.7%、保護者：中 89.8%、高 89.8%、教員： 91.7%)	この 3 年間、どの評価対象枠においても高い 評価となっている。特に中学では生徒・保護 者とも 90%を超えて今年度が最も高く評価 されている。感染拡大防止対策が支持されて いることを表しているのではないかと思われ る。また、保健の授業での救命講習など実践 的な活動や、保健室が発行している「ほけん だより」も Classroom へアップするなど広く 読まれる工夫がなされていることも大きいと 考える。(○)
		オ. 生徒のメンタルヘルスの維持のため、親身にな って対応にあたるように努める。それにあたって は、専門家との連携も進め、カウンセリングマイ ンドの醸成をさらに図りたい。	オ. 「悩みや相談に親身にな ってくれる教員がいる か」に関する評価結果が どの評価対象者枠におい ても 80%以上(前年度→ 生徒：中 75.3%、高 80.5%、保護者：中 88.1%、高 83.5%、教員 94.4%)	昨年度まで中学は年次があがるほど低くな り、高校は逆に高 3 が最も高い傾向にあった が、今年度は、中学では中 1 が 82.5%で最も 低く、高校では高 3 が 81.3%で最も低かつ た。ただ、どの評価対象枠でも 80%を越え ているため、昨年度より高い評価となってい る。with コロナとして、学校行事が戻ってき て生徒たちが安定した生活を送ることができ ていることも高い評価に関係しているかもしれ ない(○)

3 環境整備力の向上	(1) 施設の充実	ア. 自習室の環境をより良いものとし、生徒たちが自学自習の習慣を身につけられるように図る。 イ. 利用しやすい食堂となるように改善を進める。	ア. 「自習室は利用しやすいか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても 80%以上 (前年度→生徒：中 83.1%、高 78.2%、保護者：中 87.5%、高 83.3%、教員 83.3%) イ. 「食堂は利用しやすいか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても 80%以上 *高校のみ (前年度→生徒：79.8%、保護者：71.9%)	中学生が 84.7%と高いが、高校生が 76.8%と前年度よりも下がっている。高 1 が 74.4%、高 2 が 73%、高 3 が 84.0%である。高校生のコメントでは、私語が気になる、自教室で自習したいなどが複数見られた。また、高校生と高校生保護者に時間延長を希望する声もあった。特に試験前の運用の仕方に課題があるように感じた。(△)
	(2) 外部環境への対応	ウ. 通学路の保守をはじめ、災害や不審者から生徒の安全を守るためのさらなる努力を重ねたい。	「災害や不審者から生徒の身を守ることができるよう配慮している」についての評価が、中学生・中学保護者・高校保護者において、80%以上。 (前年度) 中学生 87.5%、高校生 79.7%、中学保護者 92.0%、高校保護者 90.1%、中高教員 55.5%。	保護者において、昨年度は 90%以上のきわめて高い評価から若干の下降があるが、依然 80%台後半の好評価をいただいた。昨今、学校への脅迫等の事件が国内各地で報告されている。所轄の警察、教育庁と常に必要な連携態勢を取り、不測の事態に対する備えをしたい。河合寺側の車道入り口にバーストップを設置し、学校側で確認のない車両の進入を制限した。通学路の安全に関して、専門家による点検を重ねている。
	(3) 情報の共有化と発信力の促進	エ. 保護者との連絡を密に行うことを通じて、生徒の学内外における状況を的確に把握し、健全な成長を促す環境形成を図りたい。	「家庭への連絡は適切に行われている」についての評価が、全評価枠において 80%以上。 (前年度) 上記の評価が、全評価枠において 80%以上。	学内コミュニケーション用の Google アカウントを保護者にも提供し、学校行事や保健関係等の重要事項連絡を漏れなく行うことに効果を得ている。また、毎日の学校生活の様子を担当・副担当が Google Classroom を通じて配信しており、生徒達の学びの情報が家庭にも届くよう留意している。感染症禍において、生徒の朝の体温記録等、健康管理を通じて保護者との適切な連携を保っている。
		オ. ホームページ等を通じた発信を強化するとともに、生徒たち自身への訴求力もあるような発信内容の作成を行なって、学内の活性化がさらに図れるように工夫を施したい。	「ホームページや広報誌は学園の取り組みを知るのに役立っている」についての評価が、高校生以外のすべての評価枠において 80%以上。 (前年度) 中学生 76.5%、高校生 68.7%、中学保護者 89.5%、高校保護者 87.9%、教員 83.4%	高校生においても 75.2%の評価を得て、前年度から改善が認められる。生徒たちの活躍は非常に多く、発信媒体において網羅仕切れないほどである。学校行事や受験生向けの入試行事についての情報を時宜に沿って発信するよう努めている。また、「今月の聖句」のコラムを毎月更新し、キリスト教主義の学園教育理念や志を発信し、内外の理解の普及と増進に寄与している。今後も広報をさらに充実させ学内活性化に寄与したい。